

## 連合 2025 平和ノサップ集会 アピール

本日、私たちは北方領土返還運動の原点の地、納沙布岬に全国から結集した。択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島からなる北方四島は、日本固有の領土である。しかし、旧ソビエト軍により不法に占拠されてから、今年で 80 年の節目を迎えることとなった

故郷・北方四島を追われ、戻ることも、自由に訪ねることもできない元島民の方々の平均年齢は、まもなく 90 歳となる。現在の生存者は 5,000 名を下回り、当時の 3 分の 1 以下となった。残された時間がいよいよわずかとなる今、北方領土問題の解決をこれ以上先延ばしすることは断じて許されない。

ロシアによるウクライナへの軍事侵略は、未だ終結の兆しすら見えない。その影響を受け、日露両国間の関係は 1956 年の日ソ共同宣言締結にもとづく国交回復以来、最悪の状況に置かれている。ロシア政府が一方的に中止を通告してきた、日露間の平和条約交渉、ビザなし交流などは未だ再開の見通しが立っていない。なかでも北方墓参は、領土問題とは別に人道的観点から実施していたものだが、それも中断されたままとなっており、元島民の方々の「せめて墓参りだけは早期に再開してほしい」との悲痛な声も聞こえてくる。

第二次世界大戦以降、日露両国、さらには国際社会が築いてきた平和や秩序を踏みにじる暴挙を、私たちは決して許さない。日本国政府には、日露関係の改善、そしてその先にある北方四島の一括返還実現に向けて、対ロシア外交交渉に粘り強く臨むことを求める。

平和なくして、私たちの暮らしも労働運動もありえない。

私たちは、北方領土問題や元島民の方々の「故郷に戻りたい」という願いを自らの心に刻み、平和運動の輪を広げていくことを、ここに確認し合う。

そして、700 万連合の力を結集し、北方四島の早期一括返還と日露平和条約の締結の実現に向けて、関係諸団体と連携して日本国政府を後押しする。北方領土問題が解決するその日まで、粘り強く運動を継続していくことを、ここに宣言する。

2025 年 9 月 7 日  
連合 2025 平和ノサップ集会